

授業が変わる!子どもが変わる!5つのポイント

西濃教育事務所

1 学習指導の目標、学習活動、指導方法を明確にするための確かな教材(題材)研究を
教材(題材)研究とは、教材(題材)に含まれる価値を明確にし、指導方法を決定していくことです。

必携!必読!

- ・「学習指導要領解説 ●●編」
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料



独立行政法人教職員支援機構
基礎的研修シリーズ No.12
「教材研究の方法」
を参考に作成

(1) 教材価値の明確化



「この教材でどんなことを教えられるか。」「この教材の学ぶ価値や魅力は何か。」と考えます。

国語(物語)

- ・物語そのもの(情景・表現)を楽しむ。
- ・言葉を調べる。
- ・同じ作者の別の作品を読む。
- ・「学習」の問いに答える。

算数・数学

- ・単元のつながりを知る。
〔何を学んできているか。〕
〔この後何を学ぶか。〕
- ・単元で扱う問題を順に書き出し、深まりと広がりをつかむ。

英語

- ・単元で扱われている題材についてインターネットや書籍で調べる。
- ・言語活動を実際に行い、なぜその言語活動が設定されているのか考える。

(2) 学習指導の目標と学習活動の決定



「学習指導要領解説」を読んで、教科や領域の目標、内容、指導上の留意点等について理解します。また、各学年の目標と内容に照らして、その単元がどのような位置付けなのか、他教科・他領域とどのように関連しているのかを明らかにします。さらに、教師用指導書や解説書を読み、その教材(題材)が意図していることを理解します。

(3) 指導方法の決定

どのような順序で指導していくか、どれくらい時間をかけて指導していくか、どのような方法で指導するか、どこで何を評価するのかを明らかにし、単元指導計画を立てます。

同じ教科や先輩・同僚の先生方と相談することは、効率的で効果的です。

2 児童生徒が安心して学ぶことができる学級経営・教科経営を

児童生徒が安心して学ぶことができているのか、以下の視点で、自分の授業を見つめてみましょう。

- 発達の段階に応じた聞き方を指導しましょう。低学年は、発表者の方に体ごと向けるとい指導も必要ですが、高学年になれば、メモをしながら聞く、自分の考えと比較しながら聞く、ということもあります。聞く目的を示すとともに、聞いてよかったと実感させることが大切です。
- 分からないことや困ったことを話す子がいたら、仲間の力で解決することのよさを感じさせるチャンスと捉えましょう。もし仲間の力で解決できたなら、質問した子も解決した子も大いに褒めましょう。
- 仲間の発言に対して、からかいの声が出た場合は、授業を一旦止めて、なぜそれがいけないのか、どんな学級・授業を目指したいのかについて、考えさせましょう。
- 挙手をしている子や授業の進行に都合のよい子の意見やつぶやきだけで授業を進めてはいけません。手を挙げていなくても、一生懸命考えている子がいます。「あなたの考えを教えて。」と多様な意見を引き出しましょう。

3 児童生徒がつくる学習課題に

追究することで指導目標を達成する学習課題であることが何より大切です。そのことを踏まえた上で、児童生徒が、「何を明らかにするのか」「何ができるようになるのか」を捉えられるようにしましょう。

(1) 学習課題を設定する際に大切にしたいこと

「何を明らかにしますか？」
「何ができるようになりますか？」
「課題は何にしますか？」

唐突に左記の問いを尋ねても、本時ねらいとする授業に向かうことは難しいことです。では、本時のねらいに即して、児童生徒が「明らかにしたい」「できるようになりたい」と願うような学習課題を設定するには、どのような工夫ができるでしょうか。以下に、いくつか例を示します。

○児童生徒に、これまでの学習や知識・経験とズレを感じさせる

「この前のやり方ではできないぞ。」「私の知っていることと何か違う。」「～なのに、どうしてかな。」

○児童生徒に、憧れをもたせたり、ゴールのイメージをもたせたりする

「やってみよう。」「〇〇をもっとよいものにしたい。」「〇〇について知りたい。」

○児童生徒が、本時は何をする時間なのか理解している

単元を通して、どのような流れで明らかにしていくのか児童生徒と共有している



(2) 学習課題設定とともに大切にしたいこと

課題意識をもつとともに、児童生徒が課題解決に向けての道筋(追究の「見通し」)をもつことも大切です。

○追究する視点を明確にする

「どのように考えていますか。」「どんなもの(資料)が必要ですか。」

「どんなこと(言葉)が手掛かりになりそうですか。」「どんなところに着目しますか。」

○追究する方法を明確にする

「どんな方法で追究しますか。」「結果(結論)は、どうなると思いますか。」

○初めの一つだけモデルとして全体で考えて(実際にやってみて)、その後、子どもに学びを委ねる



4 考えを広げ深める対話活動に

考えを広げ深める対話活動を実践しましょう。そのために、例えば、右のようなことを大切にしましょう。

生徒指導の実践上の視点

- ・自己存在感の感受
- ・共感的な人間関係の育成
- ・自己決定の場の提供
- ・安全・安心な風土の醸成
- ※生徒指導提要 p.14~15参照



○考えづくりの活動がある(個人追究、ICT活用、ペア・グループ交流)

○わけがある(見方・考え方を働かせて思考している)

○仲間の発言のよさ見つけができる

○対話のまとめや結論(出口)があり、結論を自分の言葉で語る

※対話の方向の例:考えを増やす、意見を合わせる、選ぶ、決める、整理する、分類する、関係付ける等

○対話の時間が十分にある

※教師が口を挟まない、指示をしすぎない

※教師は、「どうですか。」と問い、子どもと子どもをつなぐ

※子どもの言葉を繰り返したり言い換えたりしない



5 児童生徒がまとめる終末に

対話活動や授業の終末は、児童生徒が、もう一度、全体を振り返って思考・判断・表現し、自らの学びを実感できる時間にしましょう。教師がまとめるのではなく、以下のような発問をしながら、児童生徒がまとめきること、その学びを見届け、よさを認め広げることを大切にしましょう。

「何が明らかになりましたか。」

「何ができるようになりましたか。」

「どうまとめられますか。」「誰のどんな考えが参考になりましたか。」

「何に着目し、どのような考え方をしたことがよかったのですか。」

「今日の学習の中で、これからも使えそうなことがありますか。」

「今日の学習から、疑問に感じたことはありますか。」「自分で調べてみたくなったことはありますか。」

